

平仮名の表現

文部省特選

■16% カラー 20分

■定価 16% 150,000円

VTR 40,000円



■企画・製作
(株)桜映画社

■協力
日本視聴覚教育協会

■監修
文部省教科調査官——小林一仁
加藤達成
大平浩哉

■指導
帝京大学教授——続木敏郎
静岡大学講師——富田吉明
和洋女子大学講師——加藤 達
成城学園中学校講師

■協力
文化功労者——日比野五鳳
芸術院会員
成城学園中学校

■対象
中学生・高校生・一般

■用途
学校教材・書道教室
文化講座

■監修のことば——加藤達成

文字を書くには、「正しく整えて、美しく、早く書く」ことを目指す。なかでも平仮名は文字生活の中で書く機会が多い。

中学校国語科「書写」のねらいは、楷書や易しい行書と調和した仮名の書き方を理解して書くことである。平仮名についての知識と技術の習得には、基礎的基本的な事項の定着が必要である。

『平仮名の表現』は、毛筆・硬筆による書写力の育成を目指し、平仮名の字体、平仮名の字源、



漢字との調和など、中学生段階にあって、きちんと心得て学習すべきことがらを取り扱っている。特に、書の大家、日比野五鳳氏、續木湖山氏による表現は、書かれた文字の美しさを感じとるよき鑑賞教材である。

この映画は、中学生だけでなく、高校生や一般との関連を図って製作されたもので、広く平仮名の表現力を養い、学習意欲を高めるのに資する十分の内容を盛り得ている教材映画である。

■映画の内容

○「石山切れ」「日比野五鳳先生の書」など平仮名の名筆

日本語を自由に表現できる平仮名は、日本独特の表音文字であり、その発生は平安中期頃と言われるが、その美しさも又、書の芸術として古くから広く愛好されている。

○硬筆による書写授業

平仮名は易しそうに見えても、なかなか難しく、他人に読めないような悪い癖字を書いている事が多い。したがって正しい書き方、正しい筆遣いを身につけるための書写学習が大切である。

○平仮名の字源

平仮名は漢字をくずした草書をもとにして、それを更に書き易く、速く書ける字体として発展した。その変化を見ると漢字の楷書や行書と書き方の違いがよく分る。

○万葉仮名から平仮名へ

その昔、日本固有の文字をもたなかった私達の祖先は、中国から伝来した漢字や漢文を学んでいたが、奈良時代の頃から、この漢字を使って日本語を綴る事を考え出し

	字源表 平仮名は楷書をくずした草書をもとにして、早く書ける字体として発展した。
	懸腕法 大きい字を書くのに適した姿勢。
	提腕法 筆の下の方を持ち、右手首を軽く紙面につけて書く。小筆を用いる時の姿勢。
	枕腕法 右手首を左手に軽くのせて書く姿勢。



た。いわゆる万葉仮名である。この万葉仮名に使われた漢字が次第に楷書から行書、草書と変化し、読みやすく書きやすい字体が生れて、平仮名のもとになった。

○平仮名の特徴とその美しさ

平仮名の特徴と美しさが、曲線とまるみにあるのは、その成り立ちが草書の持つ「続け書き」の筆の流れ「筆脈」と「気脈」を大切にしているからである。平仮名は、すべて筆をやわらかく入れ、終筆も軽く抜くところが特徴である。

○毛筆による書写授業

毛筆による平仮名の書写は、筆順や筆脈の流れを学び取り、字形を整える能力を高めるものであり、鉛筆やペン書きのためにも欠かすことができない学習である。

○平仮名の基本、その筆遣いと字形の整え方

平仮名の代表的な筆遣い、字形について「よこ画」「たて画」「結び」「まるみ」「点」「折れ」に分けて、それぞれの代表的な字を選んで、その筆遣い、字形特徴を書写して見せる。

○書写の姿勢

懸腕法、提腕法、枕腕法などがある。

○續木湖山、日比野五鳳先生による創作の実技と作品

美しく整った文字は、秀れた文章と相まって人々に感動を与える。その昔、平安女性の手によって磨き上げられた平仮名は、今日、私達の生活、学問、芸術、文化を支える大きな力となっている。

■資料提供

東京国立博物館
(財)徳川黎明会
MOA美術館

■製作スタッフ

製作・撮影 村山和雄 照明 本橋俊男
脚本・演出 田中 徹 音楽 長沢勝俊
解説 白坂道子

姉妹作！—— 漢字の表現 篆書と隷書——

文部省特選

教育映画祭・文部大臣賞

□16%カラー 21分
□定価 16% 150,000円
VTR 40,000円

■製作■ 株式会社 桜映画社

東京都新宿区西新宿1-22-1スタンダードビル 〒160 電話03(342)5768

■配給■